

**令和7年度（2025年度）第3回
熊本県男女共同参画審議会議事録
（概要版）**

令和7年（2025年）11月12日（水）

男女参画・協働推進課

令和7年度（2025年度）

第3回男女共同参画審議会議事録

令和7年（2025年）11月12日（水） 10:00～

熊本県庁防災センター3階 306会議室

1 開会

2 挨拶 環境生活部県民生活局 中川局長

3 議事 第6次熊本県男女共同参画計画の素案について

事務局から資料1に沿って第3章から第7章まで章毎に説明

【第3章】

山下会長

第3章について、ご意見、ご質問をお願いします。

委員

意見なし

【第4章】

山下会長

キャッチフレーズについて、ご意見をお願いします。

島田委員

わかりやすく、スマートになった。「そういうもんだ」という言葉に対して疑問は出るかもしれないが、「自分スタイルで挑戦できる」のところで前向きなメッセージになっていると思う。

狭間委員

前回の「もんだ主義」という言葉がわかりにくいとのご意見もあったが、今回のものは、内容も非常によくわかるし、すっきりとしたという印象を受ける。

福山委員

若い人の意見を集約されたことはいいと思う。今、社員の平均年齢は30歳弱で、20歳代が半分以上であるが、今の若い人は失敗はしたくないので「挑戦」という言葉は少し引く傾向にある。また、同調圧力があるところでやってきているので、「自分スタイル」に抵抗がある。ここにあるキーワードを若者になじみがある言葉で表現すると、「自由」と「楽しい」が近いのではないか。また、「挑戦する」より「成長したい」と感じているようだ。意味合いは同じだが、少し柔らかい言葉で表現する方が

若い人たちにはいいのではないかと思う。

星田委員

学校現場でも若手が増え、若手を中心に学校の雰囲気がつくられている。私たちが思ってる以上に、若い人は吸収力があって、自分スタイルでやるのがとても上手。最近のアンコンシャス・バイアスの授業でも、子どもたちと一緒に考えていくという授業をスマートにやっている。こういうキャッチフレーズがあると、とても取り組みやすいと思った。

園田委員

これからの5年計画ということで、若い世代の方の声が拾えるといいと思ったので、今回、県の若い世代の職員にアンケートを取ったことはよかったと思った。

色々なことを諦める女性が多かったので、自身の活動の中では「家庭も仕事も諦めない」というキャッチフレーズで活動をしてきた。「挑戦」という言葉が入ってるのはいいと思う。「もんだ主義」がどうしてもよくわからなかったので、わかりやすくなっていいと思った。

太田委員

大学生といった若い人の挑戦に対して県がセーフティネットを用意し、応援するという方向性が本計画に含まれるとよいのではないか。「挑戦した結果、失敗するかもしれない」というリスクに対するバッファー（余裕・ゆとり）を県はどのように用意できるのか。

事務局

事務局としては、当初「もんだ主義」を推していたが、若い職員へのアンケートの中で「わかりにくい」という意見が出て、「もんだ主義」は取り下げさせていただいた。「自分スタイル」は、アンケートの中で出てきたフレーズ。「挑戦」という言葉については、福山委員や太田委員がおっしゃるように若い方にはハードルが高いのかと思うところもあるが、その前後に「自分スタイルで」、それ（挑戦）ができる熊本づくりをしましょう、という文章にして、若い人たちに「あなたらしく挑戦ができる熊本を作りたいと県は思ってます」というメッセージを伝えられればと考えている。「挑戦」とするのか「成長」とするのかは、もう少し考えていきたいが、暫定的に現行案で進めさせていただきたいと思う。

福山委員

石破前総理が「楽しい日本」を打ち出した時、とても感動していいなと思った。国レベルでは「楽しい」は難しいのかもしれないが、県レベルではできるのではないかと思った。

山下会長

パブリックコメントにおいて、いくつか選択肢を用意して選んでいただくことも可能なのか。

事務局

パブリックコメント前の、もう少しフランクなアンケートの段階では可能だったと思うが、パブリックコメントの段階では、少し難しいので、もう少し固めたところでパブリックコメントに出させていただくことになる。パブリックコメント中であることをきちんと公表して、多くの意見がもらえるように工夫したい。

山下会長

了解した。

島田委員

前回の審議会の資料1 体系図の基本方針3の施策の方向3で、「(3) 国際協調等に向けた国施策との連携」があったが、「(1) 県・市町村の推進連携の強化、国との連携」にまとめられたとの整理でよろしいか。

事務局

国の素案では項目立てされていたが、県レベルでは実際にやる施策が見当たらなかったため、施策の方向からは取り下げ、(1) ③国との連携のところに集約させていただいた。

【第5章】

山下会長

第5章で説明いただいた具体的な施策を表にしたのが、第7章資料編の一覧と理解してよろしいか。

事務局

そのとおりである。

山下会長

よろしければ、第5章で新しい施策としてあげられたものについて、この第7章資料編のどこに当たるのか、説明いただきたい。

事務局

48ページ、1 (5) ●二つ目「仕事と健康の両立への支援」、1 (6) ●三つ目「子ども、若者に対する性犯罪・性暴力への対策の推進」、49ページ、1 (6) ●二つめ「インターネットを利用した性暴力等への対応」、50ページ2 (1) ●二つ目「若者・女

性にも選ばれる地域づくりのための男女共同参画の推進」が該当する。

山下会長

第5章の本文で説明いただいた内容を具体化したのがこの第7章資料編ということで、これについてご意見ご質問があればお願いします。

太田副会長

本素案の表記について。29ページにおける「（注）様々なハラスメント例」について、その中の「アカデミック・ハラスメント」の記載に「乱用」とあるが、正しくは「濫用」ではないか。38ページの「（3）教育・メディア等を通じた男女双方の意識改革、理解の促進」については、性には色々な多様性があるから、「ジェンダー意識改革」などの表現がよいのではないか。「セクシュアル・ハラスメント」と「セクシユアルハラスメント」など、表記上のブレがある。23ページにある「リスクリング」などの用語が分かりにくいので説明が必要ではないか。50ページに「学習資料（本・ビデオ）」とあるが、ビデオは今ほとんどないと思うので、用語のリニューアルが望まれる。

事務局

適宜、修正をさせていただく。

狭間委員

29ページ「（注）様々なハラスメント例」において、労働局で使用しているものとは異なる、少し説明の足りないところがある。例えばパワーハラスメントでは、「身体的若しくは精神的な苦痛を与えること、」との表現は入らない。また、マタニティーハラスメントやパタニティーハラスメントにおいて、「上司や同僚からのいやがらせ」が含まれるなど。

事務局

当県のハラスメント対策をしている部局ともう一度摺合せをして、わかりやすい書きぶりにしたい。

山下会長

本文に「性的少数者」「性的マイノリティ」という語句が出てきているが、現在、この表現が公文書上一般的であるのか確認をお願いしたい。第5次計画を見ると、「性的指向・性自認」という表現はあるが、「性的少数者」という表現はなかった。再度ご検討いただければと思う。

事務局

文言については、国の素案の方に使用されているものや他の資料からそのまま使用

していたが、使用する文言については、もう一度確認するとともに、使用する根拠を確認する。

福山委員

「性的少数者」というが、「LGBTQ」まで入れると2割3割いると言われているらしい。カミングアウトされている方は少数なのかもしれないが、潜在的に違和感や思いがある人たちは、自分たちが認識してるより多数だと思う。その方々について考えると、「少数者」と表現するのは前時代的かなと思う。

事務局

「男女」ではなく「誰もが」といった文言が使用されているところもあり、検討する。

島田委員

この会議では、若い人に重きが置かれているところもあるが、熊本県の人口動態を見ると、高齢化社会に進んでいる。看護協会の事業で話を聞くと、「60才以上の人が辞めたらうちの病院は成り立たない」という声もよく聞く。先ほど「フレイル」という言葉が出てきたが、「いつまでも活躍できる」という概念も少し入れていく必要があるのかと思う。先日人口推計を見たが、菊地圏域以外はすべて人口減少していく、かつ85歳以上の人口が増えていく。その方たちが、お元気でいただくためには、中高年の健康づくりが必要だとか、その先を見越したところでの予防という視点も必要なんではないかと思った。

事務局

少子高齢化についてはあらがえない事実となっている。この計画自体は、若い方はもちろん、基本的には全県民向けである。例えば24ページに「生涯を通じた男女の健康への支援」という項目はあるが、高齢になってからの部分については、住み慣れた地域で元気で暮らしていけるような熊本県を目指しているので、そのあたりを少し加筆させていただきたい。

園田委員

P25（5）生涯を通じた男女の健康への支援のところ、「職場での女性の健康に関する」と「職場」と属性が限られていたので、仕事に就いていない女性への視点がどこかに入るといいなと思っている。また、男女共同参画センターの機能に対しての記載が見当たらない。

事務局

男女共同参画センターについては40ページに少し記載させていただいている。国の方では、独立行政法人男女共同参画機構を立ち上げて、法令に基づいて男女共同参画

センターをグリップする方向になっている。県の男女共同参画センターについては、これまでと同様、県の男女共同参画を進める拠点として、活用していくことになる。

山下会長

園田委員のご指摘のところは、50ページの資料7基本方針3で、(2)の企業や各種団体との連携のところに、男女共同参画センターについて掲載されていないというご指摘も含めてあったと思うので、ここにも加えられてはいかがか。

事務局

御指摘のとおりにしたい。

山下会長

38ページの(2)「男女共同参画の視点に立った各種制度等の整備」の①「男女共同参画の視点に立った各種制度の見直し」の末尾で、「社会の変化を求めた議論が求められる状況にあります」と記載されているが、他の項目は方針についても記載がされているのに、ここだけ「議論の状況にあります」とほかの表現と異なっているので指摘させていただいた。

事務局

夫婦別姓については、知事の見解としても、「国の方で十分議論いただきたい」というのが公式見解となっているので、このような表現となった。

山下会長

「議論が求められている状況にあるので、今後、状況を踏まえた対応をしていきたい」など、「状況に応じて何かしていく」という表現で締めたほうがいいのではないかと思った。

事務局

この書きぶりは、事務局でも議論になったところであり、他県の状況なども調査して表現を工夫したいと思う。

太田副会長

「マイノリティ」は、人数的要素に限られない複雑な概念(例：村井真子「マイノリティとは？種類や身近な具体例、現状と課題、対策を開設」朝日新聞SDGs ACTION!、2024年11月27日、<https://www.asahi.com/sdgs/article/15521262>参照)なので、それを踏まえた手厚い考慮を要する。また、人口減少については、近年は「スマートシュリンク」といった構想が社会的に注目されており、こうした概念をキーワードにしてもよいかもしれない。女性の政治参画についていえば、「マタニティトラック」や「ガラスの天井」といった明確なキーワードがあることがより望ましい。クォータ制

などの具体的な施策を意識した方針も考えである。

事務局

「フェムテック」、「リスキリング」、「スマートシュリンク」などを含め、世の中に容認されているかどうか、県の計画に書き出すかっていうのをすごく悩ましいし、書くのであれば、丁寧な説明、用語の説明などもつける必要があると思う。用語については再度吟味させていただきたいと思う。

山下会長

第5章基本方針1の現状と課題について、記載内容については異存はないが、項目分けもなく5ページぐらいにわたっており、理解しづらいので、何か工夫をされた方がいいと思う。

事務局

適宜対応する。

星田委員

29ページ、基本方針1（6）⑦インターネットを利用した性暴力等への対応について、学校現場では、授業でタブレットを使用しているが、家庭に持ち帰っていいので、夜遅くまで、タブレットやスマホを見ていて昼夜逆転し、家にこもって不登校になっている子もいる。学校としても自宅でのことなので指導ができず、家庭でもなかなか指導ができない。また、昨年度はネット上で、若い男性と知り合って学校に来なくなってしまって、性犯罪になってしまったということもある。また、サイトで知り合った不登校の仲間といろいろな話をしてるうちに、朝起きれなくなった子もいる。そういう現状がある。

事務局

夏頃、パレアの方でインターネットの使い方を田中慎一郎先生に講演していただいたところ、大変多くの方に御参加いただいた。社会全体として問題意識を改めて感じたので、県としても、教育庁や学校現場と一緒に施策を進めていきたいと思う。

【第6章以降、全体】

太田副会長

43ページにある「小学校前期過程」は「課程」に修正を。

事務局

修正する。

島田委員

(3) メディアを通じた男女双方の意識改革のところで、男女共同参画を校内研修のテーマに採用した小中学校及び義務教育学校の割合が100%ということだが、毎年度実施している数ということか。

事務局

教育庁と相談して、全校で実施するというのを目標にするということで聞いている。

山下会長

累積ではなく、毎年全校で実施するという理解でよろしいか。

事務局

文科省の方針として、全校で毎年やるというふうに打ち出されていると聞いている。

星田委員

するようになってきていると思う。

山下会長

県の方ではどのようにして数値を取られるのか。

事務局

教育庁での調査となる。

山下会長

命の安全教育も、先ほどの校内研修の方も、毎年全校で実施するという目標という理解でよろしいか。

事務局

そのように聞いている。

山下会長

「県内事業所」という用語が何ヶ所も出てくるが、この県内事業所の定義が分かりづらい。以前の審議会で、毎年調査サンプルが異なると聞いたので、調査対象（従業員数の規模や対象数）をどこかで明示しておいた方がいいと思った。

事務局

県の労働部門でやっている調査で、毎年、定点で調査していないので調査結果が変わってくるところがあるが、そのことも含めて、検討させていただきたい。

山下会長

調査対象は従業員数などの一定の基準によって抽出されているものか。

事務局

この調査においては、正社員を5人以上雇用する民間の事業所から任意で抽出して調査をしているとのこと。

山下会長

「県内事業所とは～～を言う」のように、欄外に注釈があれば、わかりやすいと思う。

事務局

検討する。

島田委員

「生涯通じた男女の健康への支援」の指標で「くまもとスマートライフプロジェクト応援団登録数」についてはわかりやすくいいと思う。ただ、参考指標では、女性を対象とした指標のみになっているので、何かしら男女に共通するような指標をひとつ入れていただけたらと思う。

事務局

当初計画が策定された第1次、第2次のときは、男女不平等を引き上げるところが多かったが、今の男女共同参画の指標として、関係課と適切な指標を検討したいと思う。

山下会長

(4)の農業委員会数について、ほかの指標については割合で表現されているが、農業委員会だけ割合がわかりにくいと思った。

事務局

この指標は農林畜水産部門の方で持っている目標と連動しているため割合ではなく数値で記載している。

山下会長

現在の4組織が多いのか少ないのかがわかりづらいので、何組織中4組織など全体数が分かれば達成率がわかりやすいと思う。

事務局

対応する。

狭間委員

45ページ、「計画策定を行っている市町村の割合」が100%を目指すとするが、策定していない市町村があるのか。

事務局

残念ながら5町村ある。男女共同参画は、現在クローズアップされている分野であるので、市町村計画の策定を推進していきたい。

星田委員

45ページ「PTA会長に占める女性の割合」については、PTA自体がなくなるところ、PTAはあっても会長がいないところが結構あると聞いている。そういう状況があるということをお知らせしておく。

島田委員

「妊娠届出率」という指標が、項目とリンクしてるのか、今ひとつつながらないので、指標を見直していただければと思う。

事務局

この大項目に対して、以下の2つの指標となっているが、関係課とまた検討させていただきたい。妊娠届の提出というのが、貧困や困りごとのある女性とリンクするところではよろしいか。

島田委員

了解した。

園田委員

防災復興における男女共同参画の「消防団員における女性の割合」について、「消防団」の現状を鑑みると適切な指標か。また、「都道府県・市町村防災会議」などでの女性委員の割合について項目を追加する予定はないのか。

事務局

「消防団」に加え、「自主防災組織」も自治体の方で進められているが、国の指標との関連もあって、消防団を採用している。消防団員の数も高齢化や人口減少で確保できないということもあり、活動に参加していただきたいと指標も挙げさせていただいてるところ。「都道府県・市町村防災会議」については、1（2）あらゆる分野における政策・方針決定過程への女性の参画拡大に「県の審議会等における女性委員の登用率40～60%を満たす審議会の割合」に含まれているが、個別に目標とするかは検討する。

太田副会長

教育分野の管理職について、大学関係の指標は参考になるのだろうか（令和6年度版（2024年度版）熊本県男女共同参画年次報告書17ページにおいては、「大学・短期大学等の教員における女性の参画状況」が扱われている）。また、どれが新設の指標であるか、転出超過の割合についての指標の趣旨についてわかりやすい説明を要する。

事務局

教職員における管理職の割合は国が小中高で設定しており、指標が取りやすいということもある。大学についても、すでに公表されている数字があれば、検討してみたい。それからそれぞれの指標が何のためにあるかということについて、説明があったほうがいいんじゃないかというご提案かと思うので、その辺りも考えてみたい。

狭間委員

44ページ「自治会長に占める女性の割合」について、自治会長については本文に特に記述がないのでどういった意図があるのか。現状と課題の中で出てきた「男性の育児、家事、介護等の時間」が少ないというものがあるので、指標にできないか。

事務局

自治会長については、35ページに少し書かせていただいている。今ご提案いただいた家事時間も含めて、12月に国の基本計画が出た際に、取り入れられた新しい指標でよりよい指標があれば、取り入れていきたい。また、家事時間については42ページの1（1）参考指標の4番目に採用している。数字の根拠になる調査が5年に1度しかなく、国の第5次計画も参考指標として採用されていたため、今回から入れたところ。先ほど少し説明の中でもあったが、国の方で、同じような項目で、非常に高い目標値などを示された場合は、当県の目標値についても考え直さなければならない。

福山委員

女性が世の中で活躍していただくためには、どれだけ女性を優遇できるかが、大切である。もう一步踏みこんで男女共同参画の先に行く形が見えると、女性の方ももっと希望が見えると思う。

事務局

男女間の格差是正のために、ポジティブアクションで女性優遇をしてきており、これからも不十分ではないところでは継続する必要がある。一方で、女性ばかり優遇することに不満もあるため、男女共同参画では、格差是正のため、片方に優遇しなければいけない場面もまだまだあるが、未来としては、男女に関係なくというところを目標にした計画にしたい。

福山委員

アクセルを踏みながらブレーキ踏むっていう形が、物事が進まない要因なのかなと

思う。アクセルを踏み過ぎたらちょっと戻すぐらいな感じが、民間ではできるが行政では難しいのかなと思った。

山下会長

本日出た意見をご検討いただいて適宜対応をお願いしたい。最後にスケジュールの説明があると思うが、1月にパブリックコメント、2月に次回審議会とのことで、パブリックコメント前に本日出た意見の反映について審議する場がない。どのように私たち委員に共有されるのか。また、国の基本計画が12月に出た後に、指標の見直しがあるかもしれないとのことであったが、そこで修正されたものに対して委員がどう意見を述べるのか。

事務局

会長一任という方法か、書面でのご報告のいずれかになるかと思う

山下会長

委員の専門分野からそれぞれのご意見が出たので、会長一任ではなく、委員全員に書面でご報告をいただきたい。

事務局

パブリックコメントに載せる案について、書面でお伺いし、御意見はメールでいただく形にしたい。

福山委員

変更点が分かりやすいようにお願いする。

事務局

対応したい。

4 閉会